

祖父の残した建物への思い入れ……伝統+耐震+省エネを目標に。



和室二間と廊下を一体にしたリビングホール



正面奥は元の台所をダイニングに改造。
増築部のキッチンに繋がる。



板戸の奥は元の和室8帖。今回畳表、壁聚楽、天井板改修

昨年ご紹介の耐震+省エネ改修を施した「離れ」に続く、母屋（伝統建築・しころ屋根）の増築+改造工事である。祖父が建てた伝統民家への「思い入れ」が熱い孫夫婦の依頼で、既設建物に使われている素材を利用し、耐震+省エネ、更に増築を行った。ちなみにご両親、施主家族はこれを機会に、母屋、離れの生活を入れ替えた。左下写真の手前右側が離れ、奥左側が母屋。屋根に見えるラインから前の部分は以前ガレージだったが、今回増築部分であり、元の伝統意匠である入母屋+しころ屋根をそのまま「写す」ことにした。屋根は竹簾土葺き和瓦を全て下ろし、新たに野地板を設けて軽量瓦屋根に吹き替えている。断熱材を2重垂木部に敷設した外断熱に。外壁は離れ同様、杉板を取り除き、土壁は残して外側に合板+胴縁+断熱材を敷き込み、焼き杉板+漆喰風サイディング張りで耐震と省エネ改修を行った。更に床下には基礎がないことから、根固めを2段に取り付け



右側が前回改修の離れ棟。左側が今回の母屋棟。
屋根に見えるラインから左が増築部分。

合板による補強を行っている。小屋裏も床下同様、束相互を小屋梁上で縦横に寸・三五材で緊結している。内部は田の字4間の和室の二間は残して、廊下と一体にしたリビングホールとした。既設内法は5尺7寸であり、鴨居兼用の胴差し2本は抜き替え高さを稼いでいる。趣のある板戸、簾戸他可能なものは再利用。「木」大好き監督の提案で造作材は全て無垢材を使う事が出来た。



しころ屋根の特徴は中央に熨斗段葺きを行う。